

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-504876(P2005-504876A)

【公表日】平成17年2月17日(2005.2.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-007

【出願番号】特願2003-534520(P2003-534520)

【国際特許分類】

C 1 1 D	1/835	(2006.01)
B 0 8 B	3/08	(2006.01)
C 1 1 D	1/62	(2006.01)
C 1 1 D	1/68	(2006.01)
C 1 1 D	1/72	(2006.01)
C 1 1 D	3/20	(2006.01)
C 1 1 D	3/26	(2006.01)
C 1 1 D	3/34	(2006.01)
C 1 1 D	3/36	(2006.01)
C 1 1 D	3/43	(2006.01)
C 1 1 D	3/48	(2006.01)
C 1 1 D	3/50	(2006.01)

【F I】

C 1 1 D	1/835	
B 0 8 B	3/08	Z
C 1 1 D	1/62	
C 1 1 D	1/68	
C 1 1 D	1/72	
C 1 1 D	3/20	
C 1 1 D	3/26	
C 1 1 D	3/34	
C 1 1 D	3/36	
C 1 1 D	3/43	
C 1 1 D	3/48	
C 1 1 D	3/50	

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月29日(2005.6.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

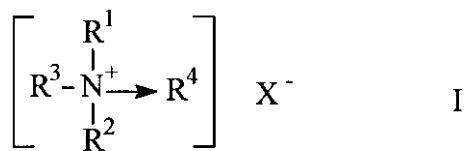
【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) 分枝または直鎖第一級アルコールエトキシレート、第二級アルコールエトキシレート、分枝デシルノトリデシルアルコールエトキシレート、分枝または直鎖アルキルフェノールエトキシレート、分枝または直鎖アルキルアミンエトキシレート、アルキルエーテルアミンエトキシレート、分枝または直鎖アルコールアルコキシレート、アルキルグリコシド、およびそれらの混合物からなる群より選択される非イオン性界面活性剤、

b) 一般式(I)、

【化1】



(式中、R¹およびR²は同一または異なり、アルキルおよび置換アルキル基からなる群より選択され、R³は約10～20個の炭素原子を有する直鎖アルキル、分枝鎖アルキル、直鎖ヘテロアルキル、および分枝鎖ヘテロアルキルからなる群より選択され、R⁴は、1～約5個の炭素原子を有するアルキル基からなる群より選択され(好ましくはメチル)、Xはハロゲン原子、好ましくは原子塩素である。)を有する第四級アミン塩界面活性剤、
c)わずかに水溶性の極性有機化合物、および
d)水を含む、炭化水素含有汚れを除去するための組成物。

【請求項2】

わずかに水溶性の極性有機化合物が炭化水素またはハロカーボンでなく、酸素、窒素、イオウ、リン含有官能基の1つ以上のヘテロ原子を含有し、約7～約16個の炭素原子を含有するアルキル基を含有する、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

わずかに水溶性の極性有機化合物が、アルコール、アルデヒド、ケトン、エーテル、グリコールエーテル、酸、アミン、エステル、N-アルキルピロリドン、およびそれらの相溶性混合物の群より選択される部分を含有する、請求項2に記載の組成物。

【請求項4】

非イオン性界面活性剤と第四級アミン塩界面活性剤との重量比が約1：4～約4：1の範囲である、請求項1に記載の組成物。

【請求項5】

非イオン性界面活性剤と第四級アミン塩界面活性剤との重量比が約1：1である、請求項4に記載の組成物。

【請求項6】

活性のわずかに水溶性の極性有機化合物と活性の界面活性剤(非イオン性界面活性剤および第四級アミン塩)との重量比が約0.1：1～約1：1の範囲である、請求項1に記載の組成物。

【請求項7】

a)有効量の請求項1に記載の組成物を汚れた表面に塗布するステップと、
b)組成物を表面に塗布した後に、研磨物品による機械的操作を表面で実施するステップと、
を含む、炭化水素含有汚れを汚れたものから除去する方法。

【請求項8】

機械的操作を実施するステップの後に、表面から組成物を除去するステップをさらに含む、請求項7に記載の方法。